

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

佐賀県鳥栖市
が応援するふるさと名物

米、古代米、いちごなど農産物
を活かした商品群



わが市町村の
ふるさと名物は
これ!



～近くの方へ、遠くの方へすぐに届けたい鳥栖の恵み～



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

佐賀県鳥栖市

地域の
プロフィール



鳥栖市は、昭和29年4月に2町3村が合併して誕生しました。

令和2年1月現在、人口73,894人、面積71.72km²で、市政施行以来、一貫して人口増加を続ける佐賀県内唯一の街です。

また、九州の主要都市に通じる高速道路、鉄道が交わる交通の要衝という地域特性を生かした内陸工業都市・流通拠点で、進出企業は現在、200社を超えています。

その結果、製造品出荷額等は佐賀県1位の約3,500億円（平成29年6月1日現在）に達し、佐賀県全体の約20%を占めている状況です。



佐賀県鳥栖市

地域の プロフィール



一方で、北は背振山地、南は筑後川に接するため、水と緑に恵まれた豊かな自然環境が多種多様な農産物を育てています。

それは歴史が物語っており、本市北西部の柚比遺跡群から大量の炭化米が発掘され、いにしえより稲作が行われていた形跡が見られます。また、鳥栖市の東部は、江戸時代、米の取れない長崎・対馬藩の飛び地「田代領」であって、そこはオランダ領東インド会社の最高責任者であった商館長一行の旅日記に「一番米の豊かな所」と記されているような、日本有数の米どころでした。

近代的な内陸工業都市・流通拠点でありながら、古代より豊かな農産物を育む土壌が鳥栖市にはあるのです。

1

主な地域資源

穀物
野菜
果物



鳥栖市イメージキャラクター
とっとちゃん

◆米、もち米

佐賀県産ブランド米「さがびより」、「ヒノヒカリ」、「夢しずく」などが栽培され、もち米や酒米、飼料米なども生産されています。

◆古代米（黒米）

平成27年から黒米の作付が始まり、現在も栽培されています。

◆麦、大豆

佐賀県は、麦、大豆とも全国3位の収穫量を誇り、中でも二条大麦の収穫量は全国トップです。鳥栖市でも栽培されています。

◆たまねぎ、トマト

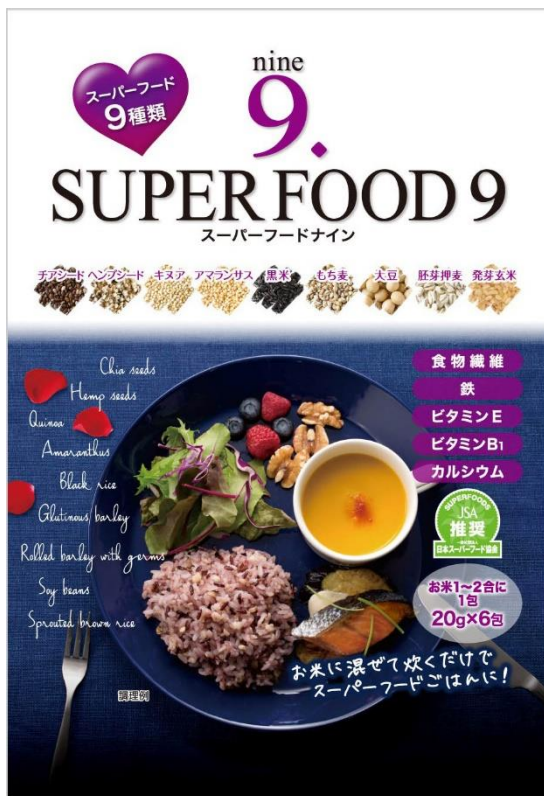
佐賀県は、全国2位の収穫量を誇るたまねぎの産地です。鳥栖市でも栽培されています。

◆いちご

佐賀県は全国でも上位を誇る産地で、鳥栖市でも栽培されています。

2 ふるさと名物

◆米、もち米、古代米（黒米）、麦、大豆、いちごなど農産物を活かした商品群



雑穀米



日本酒



焼菓子(米粉使用)



焼菓子
(小麦粉・小麦フスマ使用)



焼菓子(米粉・いちご使用)



いちごジャム

3

◆鳥栖市中小企業小口資金融資制度

鳥栖市で事業を営む中小企業・小規模事業者へ運転資金と設備資金を融資することにより、地域資源を活用した新商品の開発や販路拡大等を支援しています。

◆鳥栖市産業支援相談室

鳥栖市産業支援相談室では、創業支援、経営支援のワンストップ相談窓口を設置し、商品の開発や販路拡大の相談に個別でサポートしています。また、年に数回、経営や集客の専門家を招いてセミナーを開催しています。

◆ふれあい農園

「とりごえ温泉栖の宿」の付帯設備として、休耕地を利用した貸農園126区画を整備しています。水道設備や軽量の耕運機等も完備しているため、農業初体験の方でも気軽に利用できます。

◆ふるさと納税

ふるさと納税の返礼品として雑穀米などを採用し、全国へ鳥栖市の名産品について情報発信を行っています。今後も新商品を積極的に採用していきます。



ふれあい農園の様子